



第
17
回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

紀州さんぽ散珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

今回、串本町とトルコ国との国際交流の足跡を紹介します。



檜野埼沖合

今から120年前（明治23年9月16日）、トルコ国皇帝特派使節として来日したオスマンパシャ海軍少将以下650余名の将兵を乗せた軍艦エルトゥール号が、わが国との修交の使命を果たして帰国の途中、熊野灘の暴風雨にあい串本町檜野埼灯台下の岩礁で難破。580余名の尊い命が奪われました。一命をとりとめた69名は荒れ狂う怒濤の中、必死で島に這い上がり、檜野の灯台に助けを求めました。嵐の深夜、ましてや通信機関も救助機関もない離島での大事件。それでも島の人々は着物やふとんを持ち寄り、応急処置と看護にあたり、食料も惜しみなく提供したといひます。

その後、生存者の救済の一方で、遺体の捜索もなされました。発見された遺体は檜野埼の丘に埋葬されましたが、残る300名以上はついに発見されることなく、遠く故国を離れた異国の地、檜野の海底深く永久に眠り続けているのです。

トルコ軍艦遭難慰霊碑

明治24年3月、和歌山県知事はじめ、有志の義金により墓碑と追悼碑が建立され、併せて追悼祭が行われました。

後に、昭和天皇の檜野埼行幸（昭和4年）を聞いたトルコ共和国初代大統領ケアル・アタチュルクが、新しい慰霊碑を建立する事を決定。和歌山県が委託を受け、昭和12年6月3日、現在のような弔魂碑に改修されました。その際、大島村民は檜野埼灯台南西のこの広場（面積746㎡）を提供しました。慰霊碑の前では今も、5年ごとに追悼祭が行われています。



トルコ軍艦遭難慰霊碑

トルコ記念館

この悲劇を機に犠牲者の慰霊を通じて串本町とトルコ国との交流が始まり、昭和39年11月ヤカケント町と姉妹縁組みを結び、平成6年にはメルシン市との姉妹都市提携の正式調印を交わしました。記念館は、トルコ国



トルコ記念館

との友好の証として、また、今後一層、日ト親善の契りを深めると共に、国際的な友愛の精神を広く伝えることを目的として建設されたものです。

後に、イラン・イラク戦争時（1985年3月17日）、テヘラン空港に取り残された日本人215人はトルコ政府がチャーターしたトルコ航空機2機によって脱出。当時、航空機の手配に関わっていたトルコ大使はエ号の遭難時に大島の人によって助けられた恩を忘れないと語ったとされ、エ号の遭難事件は日本とトルコの友好の礎となっています。

参考：串本町観光パンフレット 串本支部 竹田秀樹